

特別展

黒山石涙香



✿ 安芸市に生まれ、作家・翻訳家・新聞記者：多数の顔を持つ ✿

令和8年

8/8[土] » 12/6[日]

安芸市立歴史民俗資料館

【休館日】 毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）

【入館料】 一般550円、中高生160円、小学生80円

〒784-0042 高知県安芸市土居953番地イ TEL/FAX 0887-34-3706

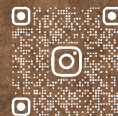
【主催】 文化庁・厚生労働省・高知県、よさこい高知文化祭2026高知県実行委員会、安芸市教育委員会

安芸市立歴史民俗資料館

【後援】 安芸市観光協会・高知県東部観光協議会・高知県観光コンベンション協会・高知新聞社・RKC高知放送
KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・NHK高知放送局・KCB高知ケーブルテレビ・エフエム高知



ホームページ



Instagram

🅑 駐車場
ごめん・なはり線安芸駅下車
元氣バス野良時計前より徒歩5分



心踊る、文化咲く

第41回 国民文化祭 第26回 全国障害者芸術・文化祭
よさこい高知文化祭2026

令和8年10月25日(日)～12月6日(日)

黒岩涙香



本名黒岩周六。文久2年（1862）9月29日、高知県安芸郡川北村（現安芸市川北）生まれ。明治期の文壇で活躍し、新聞記者でありながら作家や翻訳家など多彩な顔を持つ。自身が創刊した「萬朝報」で連載していた『巖窟王』『噫無情』などの翻案小説は好評を得、『怪人二十面相』で有名な江戸川乱歩も涙香のファンであった。

また、政財界の腐敗を糾弾し、舌鋒鋭く社会問題を論じたことから「マムシの周六」と恐れられた。

一方で、ビリヤードや闘犬、相撲など多彩な趣味を持ち、競技かるたの統一ルールを制定するなどの一面を持つ涙香。本展では、そんな涙香のさまざまな側面を、貴重な資料とともに紹介する。



涙香愛用の
旅行かばんとシルクハット



萬朝報



翻訳本



涙香会記念盆



涙香の恋文

【黒岩涙香略歴】

文久2年	1862	0歳	高知県安芸郡川北村（現安芸市川北）に生まれる。父の弟・直方の長男として養子になる。
明治11年	1878	16歳	義父直方を頼って上阪、大阪英語学校に入学。
明治12年	1879	17歳	上京。成立学舎や慶應義塾に学んだが中退。
明治19年	1886	24歳	「絵入自由新聞」に探訪員として入社。ノルマントン号沈没事件に特派員として活躍。
明治22年	1889	27歳	「都新聞」主筆となる。
明治25年	1892	30歳	朝報社を設立し、「萬朝報」を発刊。『鉄仮面』『巖窟王』『噫無情』などを次々発表。
明治31年	1898	36歳	「マムシの周六」の異名が広がり始める。
明治35年	1902	40歳	「萬朝報」が東京新聞界の発行新記録を打ち立てる。
大正3年	1914	52歳	海軍の汚職事件であるシーメンス事件発覚。内閣総辞職とするも、新内閣を擁護したため「萬朝報」の不評を招く。
大正4年	1915	53歳	新聞事業に対する功勞により、勲二等に叙せられる。
大正9年	1920	58歳	死去。自ら戒名を「黒岩院周六涙香忠天居士」とする。総持寺（神奈川県鶴見）に眠る。

関連行事

「涙香の生まれた地・川北を知ろう！」

川北に残る黒岩涙香の生家の見学や、
富田幸次郎など同郷の偉人について学ぶウォーキングイベント。

【日時】11月3日（火・祝）9時～13時

【定員】15名

【応募期間】8月8日（土）～10月20日（火）
（ただし定員になり次第締切）

【申込方法・申込先】

電話かFAXで歴史民俗資料館まで
電話・FAX：0887-34-3706

【参加費】1,500円
（入館料・昼食代・保険代等）



書道美術館

川谷尚亭生誕一四〇周年特別展

十月二十五日（令和九年一月三十一日）

涙香と同じく川北村出身で、「書道王国・安芸」が誇る書家・川谷尚亭。書の研究と普及に精力的に取り組む、近代書道の先駆的役割を果たした尚亭の、生誕一四〇周年を記念した特別展です。
書道美術館所蔵品のほか、尚亭文庫所蔵の書作品やゆかりの品など、貴重な資料を公開します。



川谷尚亭



書道美術館